

# たけやぶ

2019.1.7  
自主学童保育ささのぼくら

## <けん玉大会報告>

今もささのぼはけん玉チームです。けん玉を通して見えて来る子どもの気持ち、の動き、友達関係の成長、子ども達の意欲、どうやったら高まるの?...  
1つの取り組みを通して、それがき、かけにな、2.1ステップ上がる姿が見えま。

まず、けん玉大会の報告から

今、自主学童で、けん玉に取り組んで113名の4学童。(取り組みを始めて1年と3か月あります)各施設の環境、生活の仕方、けん玉の取り組み方、こも指の気質は、多種多様です。

### ◎ 参加人数 (クラス別に)

施設名	ささのぼ(数)	中野島(数)	オカリナ(高津)	わかわか(中野)	合計
7~10級	6	12	3	6	27
4~6級	7	12	7	17	43
準初段~3級	14	2	5	6	27
初段以上	9	4	26	4	43
合計	36	30	41	33	140

級部部 97人  
段部部 43人

◎ モシカメの部 大皿~中皿を連続してやります。速さは135回/分間以上長く続いた人が勝ち残りて入賞です。(実際はも、と速いので約7分で1000回)

級部部 10人 ささのぼの入賞者は、  
さん(2年) さん(2年) さん(3年)

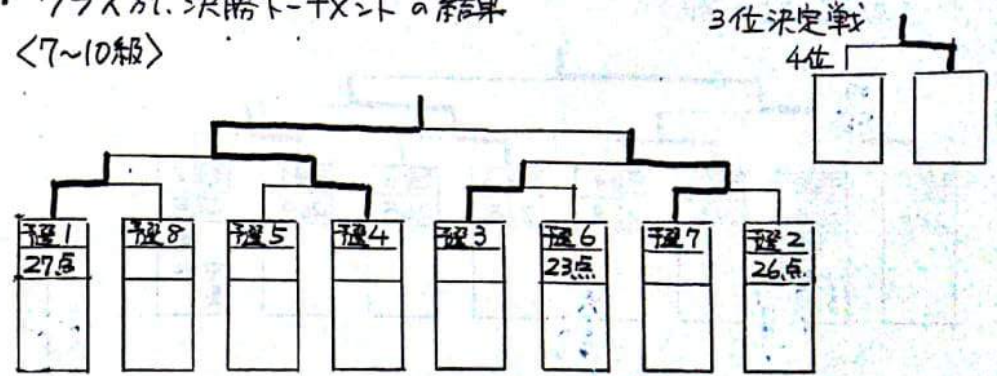
段部部 5人 にささのぼの入賞者はいませんでした。

...時間からすると、1000回以上続いた中に2人はいたのでが。

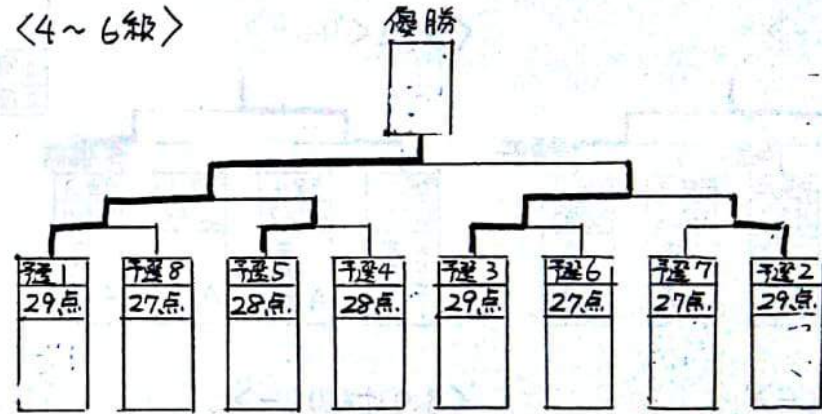
### ◎ クラス別、個人競技 (予選の満点は30点)

クラス別に種目が級の部は6種目、段の部は10種目決、ていて、この種目を級の部は5回ずつ、段の部は3回ずつや、て、成功した点数で"順位"が決まります。同点の人は、その内級の部は5種目、段の部は8種目を成功させる速さを競うタイム競技で"順位"を決めます。

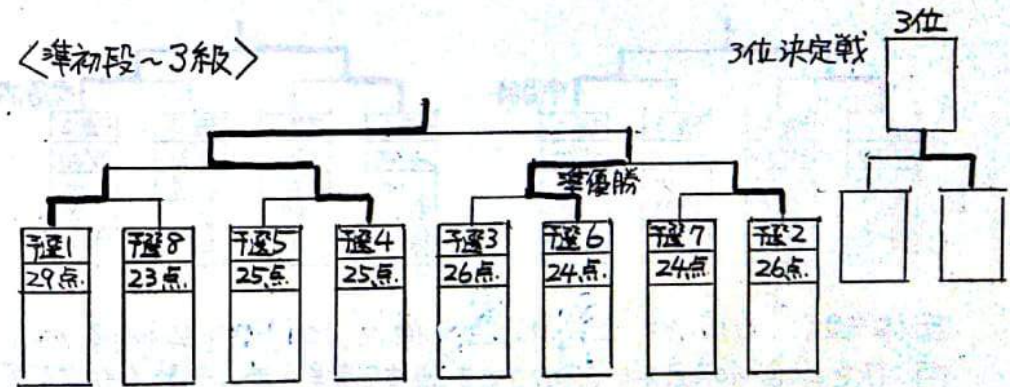
### ・ クラス別、決勝トーナメントの結果 <7~10級>



### <4~6級>

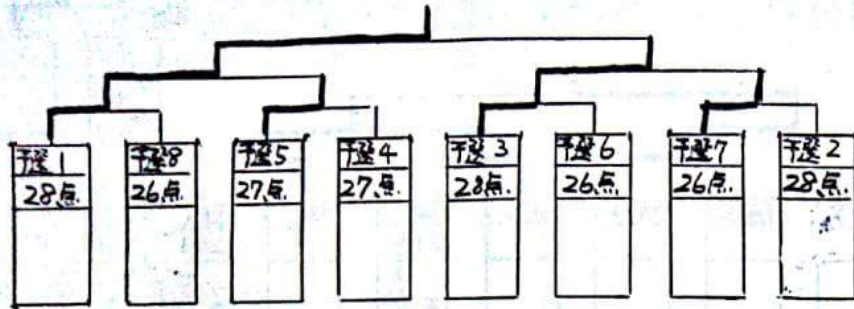


### <準初段~3級>





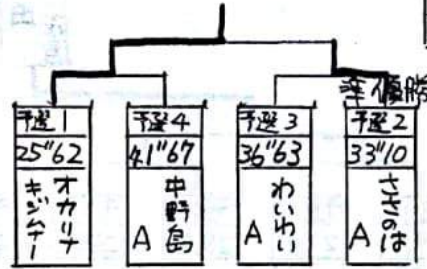
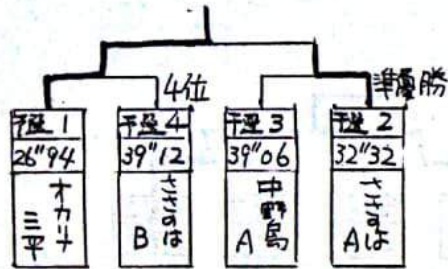
<初段以上の部>



◎ 団体競技 リレー戦 決勝トーナメント

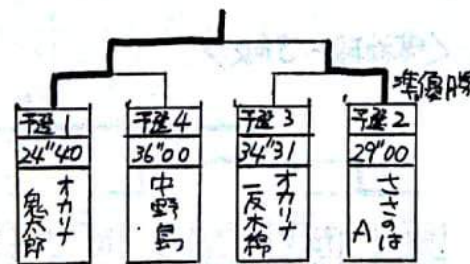
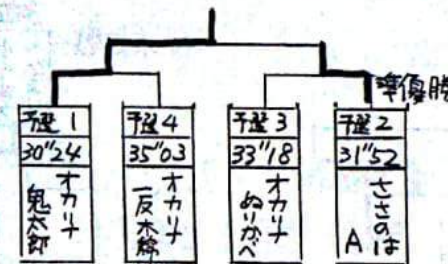
<大皿リレー>

<3うそくりリレー>



<とめけんリレー>

<ぶりけんリレー>



団体競技のリレーは、1本のけん玉を使って、10人で14-16の全員が、同じ技を1人目~10人目まで成功させる速さを競います。予選4位までが、決勝トーナメントに進みます。準決勝と、決勝のみで、準決勝のタイムで3位を決めます。大皿リレーは、1・2年の級の人。3うそくりも級の人だけが参加できます。大皿、3うそくりは、玉を落とさずに次の人に受け渡しができるかとめけん、ぶりけんは技の成功がポイントになります。

◎ 施設対抗戦「タイムリミット」

(何人でもOK)

施設毎に、クラス別に決められた技が、一度に成功できる人数毎に列を作(1列全員が成功したら、人数分の得点になり、1人でも失敗したら0点。各列に3回まではやらなければならぬルールで3分間に何点とれるかを競います。ささのこの列は今年ば3級以上は、1人ずつ作戦、1列2周回、

列	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕
クラス	7 5 10級	4 5 6級	初 段 以上	初 段 以上	初 段 以上	初 段 以上	初 段 以上	初 段 以上	初 段 以上	初 段 以上	初 段 以上	初 段 以上	初 段 以上	初 段 以上	初 段 以上	初 段 以上	初 段 以上	初 段 以上	初 段 以上	初 段 以上	初 段 以上	初 段 以上	初 段 以上	初 段 以上	初 段 以上
人数	6人	7人	2人	2人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人
1周目	○	○	○	×	×	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2周目	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

65点こ  
準優勝した  
優勝は、  
わいはい4人  
81点でした

2周目の成功率がすごい!! 準初~3級の技は「ひょうき」段の技は「うらりけん」でかなり難しい技です。1~2回でどんどん成功させたのと、7~10級、4~6級の人運が、多くで「セー」で全員成功するのは圧巻でしたよ。

<今回の「けん玉」の取り組みを通して考えたこと>

年間を通して、色々な取組をします。一人一人好き嫌い、得意不得意はあるものなので、意欲の持ち方も違います。面白さ=自覚めて、急にどんどんできるようになる人もいれば、あんまり好きじゃなかったけど、年を重ねる内にできるようになって、「オッってスゴイかも!」という表情を見せる人もいます。

低学年の内は、「みんなや、てるからやろう」というところから始まり、「いっしょけんめい」と、面白い」という所に到達すると、友達同士ワイワイ声をかけ合、てやり始めます。高学年は、段の人も多くて、段になるために、さんさん励めて来た人運のほずなかに、どこか冷めた態度で「けん玉、うまくなる事、てんねに大事?」と言、てみたり、するもいて、男女の意識の差が浮き掘りになったりもしました。「リレーとかタイムリミットとか、みんなで頑張らないとダメなのに、もつ一生懸命練習してほしい、アドバイスしても聞いてくれないし、私だ、てすごく練習してできるようになたのに、考之方が甘いなだよ!」こんな気持ちを持ち合えて、ぶつけ合えるのも、何かの取組みがあ、てことだと思、います。何で冷めた気持ちになるのかも含めて、わかり合、たいのは(指)も同じです。